

汚染物質の立体的分布分析について

1 経緯

これまでの水質調査等のモニタリング結果から、処分場内の平面的な汚染物質の分布は把握しているが、深度方向の分布については確認していない。第35回評価委員会にて、新たな取り組み「汚染物質の立体的分布分析」を行うと報告しており、内容の詳細や実施時期について報告するもの。

2 概要

一般的に汚染物質が多いほど、水中に溶存しているイオン等の成分量が多くなり、電気伝導率も高くなる傾向にある。そのため、各井戸の深度毎の電気伝導率を測定し、得られた電気伝導率のデータから汚染物質の立体分布図を作成する。さらに、既往調査の結果等も併せて考察し、今後の参考とする。

3 仕様

対象地点：場内浸透水観測井戸 18地点（別表参照）

測定方法：投げ込み式の簡易電気伝導率計を用いて観測井戸の水面から0.5m、1m、2m、以降1m毎、ストレーナー底部に達するまでの電気伝導率を測定する。

4 実施時期

令和5年9月13日（予定）

通常のモニタリングデータとの比較分析を行うため、他のモニタリング調査と同時期に実施する。

5 結果報告

次回（第38回）評価委員会にて報告する。

図1 汚染物質の立体分布図イメージ

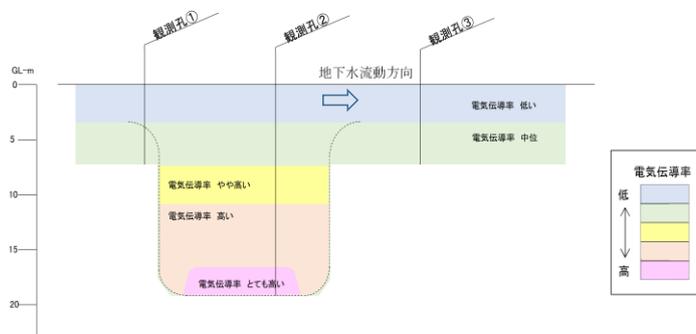


図2 観測井戸位置図

